

波浪の回折現象への境界要素法の適用

中部大学 工学部 正員 ○ 吉田 吉治

中部大学 工学部 正員 松梨 順三郎

まえがき 境界要素法は無限の広がりを持っている領域をモデル化できるという固有の特性をもっており、波浪の回折問題または港内の波の変形など、Helmholtz 方程式を基礎方程式とする問題の解法に利用される。この場合、無限遠の境界条件として Sommerfeld の放射条件が一般に用いられるが、ここでは解析解の既知である半無限の線形防波堤をモデルにして、境界要素法による解の精度を検討する。

問題の設定と境界要素法による定式化 図-1 のように半無限線形防波堤の先端に原点、防波堤に沿って x 軸、それに直交するように y 軸をそれぞれ平均海面上に設定する。また、 z 軸を鉛直上向にとる。入射波は x 軸に対して入射角 $(\pi/2 - \theta)$ で入射してくるものとする。基礎方程式および境界条件式はそれぞれ次のようになる。

$$\text{領域 } \Omega : \frac{\partial^2 \phi}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 \phi}{\partial y^2} + \frac{\partial^2 \phi}{\partial z^2} = 0 \quad (1)$$

$$\text{境界 } \Gamma_c : \frac{\partial \phi}{\partial n} = 0 \quad (2)$$

$$\text{境界 } \Gamma_\infty : \frac{\partial \phi}{\partial R} + i_0 k \phi = \frac{\partial \phi}{\partial R} + i_0 k \phi_1 \quad (3)$$

ここに、 $\Gamma = \Gamma_c + \Gamma_\infty$ とする。 ϕ は速度ポテンシャルで

$$\phi = -\frac{i_0 g H}{2\sigma} \frac{\cosh[k(z+d)]}{\cosh[kd]} \psi(x, y) e^{-i_0 \sigma t} \quad (4)$$

Γ_c と Γ_∞ は図-2 のようにそれぞれ防波堤境界および無限遠方の円形境界(半径 R)とする。 n は境界における外向法線、 $dn = dR$ 、 t は時間、 d は水深、 H は波高、 $k = 2\pi/L$ 、 $\sigma = 2\pi/T$ とし、 L および T は波長と周期とする。 $i_0 = \sqrt{-1}$ とし、さらに

$$\phi = \phi_1 + \phi_R, \quad \psi = \psi_1 + \psi_R \quad (5)$$

ϕ_1 は入射波、 ϕ_R は散乱波、 ψ_1 と ψ_R はそれぞれ ϕ_1 と ϕ_R に対応したポテンシャルとする。また、式(3)はいわゆる Sommerfeld の放射条件式である。式(4)を式(1)に代入し、上記の問題を $\phi(x, y, z, t)$ から $\psi(x, y)$ に変換すると次のようになる。

$$\Omega : \frac{\partial^2 \psi}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 \psi}{\partial y^2} + k^2 \psi = 0 \quad (6)$$

$$\Gamma_c : \frac{\partial \psi}{\partial n} = 0 \quad (= \bar{q}) \quad (7)$$

$$\Gamma_\infty : \frac{\partial \psi}{\partial R} + i_0 k \psi = \frac{\partial \psi}{\partial R} + i_0 k \psi_1 = f(x, y) \quad (8)$$

ここに、入射波のポテンシャル ψ_1 は次式で与えられる。

$$\psi_1 = \exp[i_0 k (x \cos \theta + y \sin \theta)] \quad (9)$$

したがって、 $f(x, y)$ は既知関数となる。重みつき残差法によって問題を定式化すると次式を得る。

$$\iint_{\Omega} \left(\frac{\partial^2 \psi}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 \psi}{\partial y^2} + k^2 \psi \right) \psi^* dx dy \quad (10)$$

$$= \int_{\Gamma_c} \left(\frac{\partial \psi}{\partial n} - \bar{q} \right) \psi^* d\Gamma + \int_{\Gamma_\infty} \left(\frac{\partial \psi}{\partial R} + i_0 k \psi - f \right) \psi^* d\Gamma$$

重み関数 ψ^* として次式の解を用いる。

$$-\frac{\partial^2 \psi^*}{\partial x^2} - \frac{\partial^2 \psi^*}{\partial y^2} + k^2 \psi^* + \delta_1 = 0 \quad (11)$$

ここに δ_1 は Dirac のデルタ関数である。上式の解は式(6)の基本解であり、次式のようになる。

$$\psi^* = \frac{1}{4i_0} H_0^{(2)}(kr), \quad \frac{\partial \psi^*}{\partial r} = -\frac{1}{4i_0} H_1^{(2)}(kr) \quad (12)$$

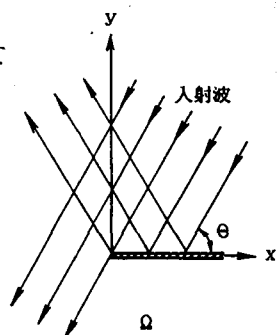


図-1 入射波の回折

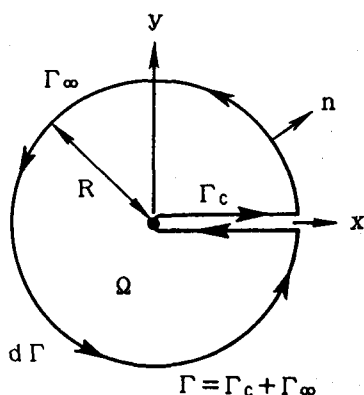


図-2 境界の説明

ここに、 $H_0^{(2)}$ および $H_1^{(2)}$ はそれぞれ 0 次および 1 次の第 2 種 Hankel 関数である。式 (11) の両辺に ψ をかけ、領域 Ω で積分すると次式をうる。

$$\iint_{\Omega} \psi \left(\frac{\partial^2 \psi^*}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 \psi^*}{\partial y^2} + k^2 \psi^* \right) dx dy = -\psi_i \quad (13)$$

式 (10) の左辺を部分積分し、Gauss の定理を適用して、式 (13) を代入すると、次式となる。

$$\text{左辺} = -\psi_i + \int_{\Gamma} \left(\frac{\partial \psi}{\partial n} \psi^* - \frac{\partial \psi^*}{\partial n} \psi \right) d\Gamma \quad (14)$$

上式を式 (10) に代入して整理すると

$$\psi_i + \int_{\Gamma} \frac{\partial \psi^*}{\partial n} \psi d\Gamma \quad (15)$$

$$= \int_{\Gamma_c} \bar{q} \psi^* d\Gamma + \int_{\Gamma_{\infty}} (f \psi^* - i_0 k \psi \psi^*) d\Gamma$$

i 点を境界上にとると

$$c_i \psi_i + \int_{\Gamma} \frac{\partial \psi^*}{\partial n} \psi d\Gamma - \int_{\Gamma_c} \bar{q} \psi^* d\Gamma + i_0 k \int_{\Gamma_{\infty}} \psi \psi^* d\Gamma = \int_{\Gamma_{\infty}} f \psi^* d\Gamma \quad (16)$$

ここに、 C_i は定数である。 $\bar{q} = 0$ とし、一定線形要素を適用すると、図-3 を参照し、次式を得る。

$$c_i \psi_i + \sum_{j=1}^n \psi_j \int_{\Gamma_j} \frac{\partial \psi^*}{\partial n} d\Gamma + i_0 k \sum_{j=n+1}^Q \psi_j \int_{\Gamma_{\infty j}} \psi^* d\Gamma = \sum_{j=n+1}^Q \int_{\Gamma_{\infty j}} f \psi^* d\Gamma \quad (17)$$

ここに、 n は要素数、 i は節点番号とする。式 (17) において $i=1$ から $i=n$ までとり、結果を行列表示すると

$$\begin{bmatrix} c_1 & \dots & 0 \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & \dots & c_n \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \psi_1 \\ \psi_2 \\ \vdots \\ \psi_n \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 0 & \dots & A_{1,n'+1} & A_{1,n'+2} & \dots & A_{1,n} \\ \vdots & \ddots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ A_{n',n'+1} & A_{n',n'+2} & \dots & A_{n',n'+n} & \dots & A_{n',n} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \ddots & \vdots \\ A_{n,n'+1} & A_{n,n'+2} & \dots & A_{n,n'+n} & \dots & A_{n,n} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \psi_1 \\ \psi_2 \\ \vdots \\ \psi_n \end{bmatrix} + i_0 k \begin{bmatrix} 0 & \dots & B_{1,n'+1} & B_{1,n'+2} & \dots & B_{1,n} \\ \vdots & \ddots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ B_{n',n'+1} & B_{n',n'+2} & \dots & B_{n',n'+n} & \dots & B_{n',n} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \ddots & \vdots \\ B_{n,n'+1} & B_{n,n'+2} & \dots & B_{n,n'+n} & \dots & B_{n,n} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \psi_1 \\ \psi_2 \\ \vdots \\ \psi_n \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} D_1 \\ D_2 \\ \vdots \\ D_n \end{bmatrix}$$

たとえば、 $A_{31,3}$ 、 $B_{31,12}$ 、 D_{31} はそれぞれ次式のようになる。

$$A_{31,3} = \int_{\Gamma_3} \frac{\partial \psi^*}{\partial n} d\Gamma = \frac{1}{4i_0} \sum_{\alpha=1}^4 [J_1(kr) - i_0 Y_1(kr)]_{\alpha} \cdot \left[\frac{\text{dist}}{r} W \right]_{\alpha} \cdot [J]_{\alpha} \quad (19)$$

$$B_{31,12} = \int_{\Gamma_{12}} \psi^* d\Gamma = \frac{1}{4i_0} \sum_{\alpha=1}^4 [J_0(kr) - i_0 Y_0(kr)]_{\alpha} \cdot [W]_{\alpha} \cdot [J]_{\alpha} \quad (20)$$

$$D_{31} = \frac{k}{4} \sum_{j=n'+1}^Q \left[\sum_{\alpha=1}^4 \{ (1+Q)(E+i_0 F) \cdot W \cdot [J] \}_{\alpha} \right]_j \quad (21)$$

ここに、 $Q = \cos \theta \cos \Theta + \sin \theta \sin \Theta$ 、 $E = \cos(kRQ)J_0(kr) + \sin(kRQ)Y_0(kr)$ 、 $F = \sin(kRQ)J_0(kr) - \cos(kRQ)Y_0(kr)$ とし、 J_0 と J_1 は第 1 種、 Y_0 と Y_1 は第 2 種のそれぞれ Bessel 関数である。dist は節点 31 と節点 3 との距離である。

また図-4 に示すように、変換式 $x = \sum_{i=1}^2 \phi_i x_i$ 、 $y = \sum_{i=1}^2 \phi_i y_i$ 、 $\phi_1 = (1-\xi)/2$ 、 $\phi_2 = (1+\xi)/2$ によって xy 座標の要素を ξ 軸上の $\xi = -1 \sim +1$ 間に変換し、Gauss の 4 点積分を実行する。 W および $[J]$ は重み、および変換ヤコビアンである。式 (18) を解いて、境界上の値が既知となると、それらを式 (15) に代入し、領域内任意点の ψ が求まる。結果は講演時に発表する。

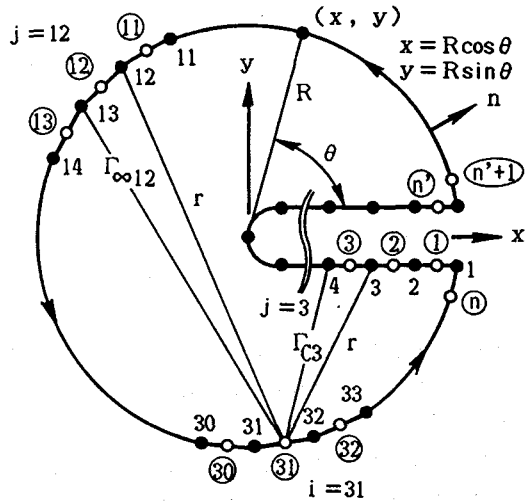


図-3 $A_{31,3}$ 、 $B_{31,12}$ 、 D_{31} の計算の説明

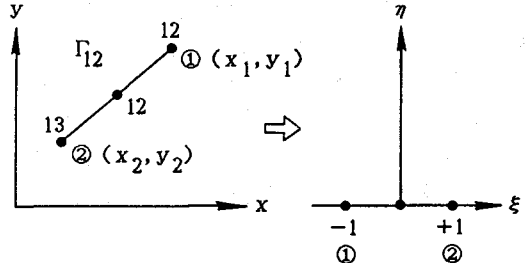


図-4 要素 Γ_{12} の ξ 軸への変換